

岡山の民話より

ね

ず

み

経

作 藤原玄洋

● FUJIWARA

アン念
チン念
和尚
おばあさん
泥棒
ネズミ
カエル

作 藤原玄洋
演出
音楽
人形美術
舞台美術
音響効果
照明
舞台監督
制作

この脚本を使うときはご連絡ください。

人形劇GENクリニック 藤原玄洋

eMail= genyo2@nifty.com

(c) 2000 FUJIWARA GenYo

一太郎文書をワードに変換したのでレイアウトが狂っているかもしれません。

第1景 山寺の境内

季節は秋。鳥のさえずり聞こえる。

緞帳のパネル左右に開くと、山の中のお寺の境内。

上手パネルは、紅葉した立木のセット。

ほうきを持ったチン念、上手前より登場。下手ケコミにちり取りを置いて。
し。

チン念 おそうじ、おそうじ。ルン、ルン、ルン。（上手に向かって）おーい、アン念。

おそうじ、おそうじ。ルン、ルン、ルン。（間）おーい、アン念。
（間）おーい、何してんだよお、早く来いよお。

アン念、上手より登場。

アン念 （あくび）あっあーあ。うるさいなあ。朝は、静かにするもんだ。

チン念、何か用事かい？ あっあーあーあ。

チン念 何かって、なんだい。和尚さんに、毎朝、そうじをするようにっていわれただろ。

アン念 そうじ？ 今日もまたやるの？ やだよお。

チン念 やだよおじゃないよ。早くほうきを持ってきて、はじめろよ。

アン念 せっかく、そうじをしてもさ、すぐに葉っぱが落ちてきて、またやんなきゃならないんだよ。そんなの、ムダじゃないか。もうすぐ、冬が来て、葉っぱがみんな落ちるだろう。そしたら、一回で終わっちゃうんだよ。

チン念 何いってんだ。毎日、きれいにそうじをすれば、気持ちいいだろう。和尚さんに、いつつけちゃうぞ。早く、ほうきを持っておいだよ。

アン念 あーあ。（ほうきをとりに戻る）

チン念 おそうじ、おそうじ。ルン、ルン、ルン。おそうじ、おそうじ。ルン、ルン、ルン。

アン念 (ほうきを持って登場) はいはい、それではやりますかあ。おそう

じ、おそうじ、楽しくない。おそうじ、おそうじ、楽しくないとつ。

チン念 おそうじ、おそうじ。ルン、ルン、ルン。おそうじ、おそうじ。

ルン、ルン、ルン。

アン念 おそうじ、おそうじ、楽しくない。おそうじ、おそうじ、楽しく

ないとつ。

チン念 おそうじ、おそうじ。ルン、ルン、ルン。(気づかず、その葉っぱ

をケコミ中央に掃き出す)

アン念 おそうじ、おそうじ、楽しくないとつ。(葉っぱを下手のチン念の

方に)

チン念 おそうじ、おそうじ。ルン、ルン、ルン。(再び、その葉っぱをケ

コミ中央に掃き出す)

アン念 おそうじ、おそうじ、楽しくないとつ。(葉っぱを下手のチン念の

方に)

チン念 (気づいて) 何するんだよ。葉っぱをこっちにもって来ちゃだめ

だよ。

アン念 何するんだよって、そうじしてるんじゃないか。

チン念 どうして、葉っぱをこっちにもって来るんだよ。

アン念 だって、そっちにいつちやうんだもん。

チン念 葉っぱは、真ん中に集めろよ。

アン念 わかったよ。

チン念 おそうじ、おそうじ。ルン、ルン、ルン。

アン念 おそうじ、おそうじ、楽しくないとつ。(かまわず葉っぱを下手の

チン念の方に)

チン念 あーっ。また、こっちに持ってくるう。だめだっていってるだろ

お。(葉っぱを真ん中に集める)

アン念 (調子に乗って) おそうじ、おそうじ、楽しくないとつ。(葉っぱ

を下手のチン念の方に)

チン念 やめろよ。(身ぶりでケコミ中央に線を引く) いいかい。この線より

こっちに葉っぱをやっっちゃダメだよ。わかったあ!

アン念 わかったよ。(かまわず)おそうじ、おそうじ、楽しくないとつ。
(葉っぱを下手のチン念の方に)

チン念 ほら、またあ。(葉っぱを中央に)この線より……(下手のちり取りを持ってきて)このちり取りよりこつちへ出ちやダメだよ。

アン念 うるさいなあ。

チン念 おそうじ、おそうじ。ルン、ルン、ルン。おそうじ、おそうじ。
ルン、ルン、ルン。

アン念 (ちり取りをチン念の方に、そおつと移動して)おそうじ、おそうじ、
楽しくないとつ。(葉っぱを下手のチン念の方に)

チン念 おそうじ、おそうじ。ルン、ルン、ルン。(気づいて)あつ。ち
り取りをこつちに動かしただろう。(戻す)

アン念 (再び、ちり取りをチン念の方に)おそうじ、おそうじ、楽しくない
とつ。

チン念 あつ。また、こつちに持つてくるー。(ちり取りを真ん中に戻して、
葉っぱをちり取りにに集める)

チン念、ほうきをアン念に渡し、ちり取りに葉っぱをのせ、上手に退場。
下手のパネル、ケコミ奥中央に移動し、反転すると阿弥陀様の像。

第2景 山寺のお堂

和尚、阿弥陀パネルの裏下手側より登場。両手で三宝にのせたオハギを
捧げ持っている。ケコミ中央に供える。

和尚 えへん。(まわりを見まわしてから、オハギに向かって)南無、南無。

オハギよ、オハギ、小僧が食べようとしたら、カエルになあれー。

オハギよ、オハギ、小僧が食べようとしたら、カエルになあれー。

南無、南無。阿弥陀様よろしくお願ひしますよ。

----- アン念は、上手の木の陰から、その様子をのぞいている。

和尚 アン念、チン念。

チン念・アン念 はい。 (上手より登場)

和尚 お前たち、そうじは終わりましたか。

チン念・アン念 はい、和尚様。

和尚 お前たち、ワシはこれから法事があるので、下(しも)の村に出かけねばなりません。留守をよろしくお願いしますよ。

チン念・アン念 はい、和尚様。

和尚 うーん、(いいにくそうに)えへんツ。出かける前にお前たちにいっておくことがあります。

チン念・アン念 はい。

和尚 このオハギのことじゃが。うおほん。

チン念・アン念 はい。

和尚 このオハギは、阿弥陀様へのお供え物じゃから、決して食べては

いかんぞ。

チン念・アン念 はい。

和尚 もし、お前たちが食べようとしても、この阿弥陀様が見ている、オハギをカエルに変えてしまうから、お前たちには、食べることができないのじゃ。

チン念 ほっ、ほんとうですか、和尚様？

和尚 うおほん。ほんとうじゃとも。わかったな。

チン念・アン念 はい、和尚様。

和尚 じゃ、ワシは出かけるじゃで、しっかりお経の勉強をするように、留守をたのみましたよ。

チン念・アン念 はい、和尚様。

----- 和尚、下手に退場。

チン念・アン念 和尚様、行ってらっしゃいませ。

アン念 (寝ころんで) 和尚様が、出かけたから、やすもうぜ。

チン念 アン念、和尚様がお経の勉強を……。

アン念 いいの、いいの。

チン念 だってー。

アン念 腹へったあ。(オハギを見る。近づいて)チン念、このオハギを食べよう。

チン念 えー。ダメだよお。和尚様にしかられるよ。

アン念 かまうもんか。(オハギを二個手に取る)

チン念 オハギが口の中で、カエルになっちゃうよ。

アン念 ゲツ！(オハギを確かめ)大丈夫さ。

チン念 カエルになっちゃうよ。

アン念 (一気に食べる)うーんまい。ほらみろ、カエルになんかならないぞ。お前も食べろ。

チン念 だってーえ。

アン念 (もう一個食べる)うーんまい、うまい。ほら、チン念、全部食べちゃうぞ。

チン念 (たまらず食べる)うん、おいしい、おいしいねえ。

----- 二人、オハギを夢中で、全部食べてしまう。

アン念 げっぷう。ああ、うまかったあ。(大の字に寝転がる)うー、くッ、苦しい、腹いっぱいだあ。

チン念 おいしかったね。

アン念 ほらみろ、カエルになんかならなかったじゃないか。

チン念 でも、どうしよう。和尚様に、しかられちゃうよ。

----- 上手より、腰の曲がったおばあさん登場。

おばあさん こんにちは。(小僧を見て)こんにちは、小僧さん。和尚様は、おられますかなあ。

チン念 和尚様は、下の村の法事で出かけましたが。

おばあさん それは困りましたのお。そうですか。

チン念 どうしたんですか？

おばあさん 今日、じい様の命日なもんで、和尚様にありがたいお経を
お願いしようと思って、やってきましたんじや。

アン念 和尚さんは、いないから今日はダメだよ。

おばあさん それは困りましたのお。今日は、じい様の命日じやのに……。

あー、かわりに小僧さんに来てもらえませんかのお。

チン念 そんなこといっても……。

アン念 チン念、お前いつてやれ。

チン念 そんなこといっても、お経があ……。

おばあさん じい様の命日じやで、ごちそうをたくさん用意して、あるん
じやが。

アン念 ごちそう。

おばあさん そうじや。じい様は、甘いもんが大好物じやったで、たと
用意してあるんじや。

アン念 ほんとうかあ、ばあさん。それなら、ボクが行って、ありがたい
お経をあげてやろう。

チン念 アン念、そんなこといいのいかあ。お経が……。

アン念 じや、ばあさん。いっしょに行ってやろう。

おばあさん それは、ありがたいことじや。

アン念 じや、チン念、出かけてくるからな。

おばあさん はいはい、よろしくお願いいたします。

二人は、上手に退場。
パネル、いったん閉じる。

第3景 おばあさんの家

再びパネル開くと、おばあさんの家。

下手のパネルにフタ付きの窓。窓は開いている。上手奥のパネルは障子。

障子の前のケコミに、仏壇の様子。その前にはお供え物のまんじゅうと花。

ばあさん、アン念の順で、下手パネルより登場。

おばあさん はいはい、着きました。

アン念 ここがばあさんの家か？

おばあさん はいはい、よろしくお願いいたします。

アン念 じゃ、早速、ありがたいお経をあげるから、ごちそうをたのむよ。

おばあさん はいはい。

----- 二人、仏壇の前に座る。

アン念 (お供えを見て) こりや、たいしたごちそうじゃ。オハギの次には、

まんじゅうか。よだれが……ジュルジュル。おっと。(手でぬぐう)

おばあさん では、お願いいたします。

アン念 わかった、わかった。(まわりを見回し) えーっと、困ったなあ。

最初は何だっけ。

なんまいだー、なんまいだー。ほれ、ばあさんもいっしょに。

おばあさん なんまいだー、なんまいだー。

アン念 (まわりを見回し) えーっと。なんまいだー、なんまいだー。

----- ネズミが、下手の戸口上に現れる。

おばあさん なんまいだー、なんまいだー。

アン念 なんまいだー、チョロチョロおいでになりました。

おばあさん なんまいだー、チョロチョロおいでになりました。

アン念 こーりや、こりや。シーシツシのシー。

----- ネズミは隠れる。

おばあさん こーりや、こりや。シーシツシのシー。

アン念 なーんまいだー、どこかにお隠れになりました。

ネズミ、今度は障子の上に現れる。

おばあさん　なーんまいだー、どこかにお隠れになりました。

アン念　おや、おーや、またまた、おいでになりました。

おばあさん　おや、おーや、またまた、おいでになりました。

アン念　なんまいだー。シーシツシのシー。

ネズミ、隠れる。

おばあさん　なんまいだー。シーシツシのシー。

アン念　またまた、どこかにお隠れになりました。

ネズミ、お供えの上に現れる。

おばあさん　またまた、どこかにお隠れになりました。

アン念　なーんまいだー、中に入っちゃいけません。

おばあさん　なーんまいだー、中に入っちゃいけません。

アン念　シーシツシのシー。大事なものを盗んではー、ほーとけ様が怒ります。シーシツシのシー。

おばあさん　シーシツシのシー。(ネズミ、舞台前を逃げていく)大事なものを盗んではー、ほーとけ様が怒ります。シーシツシのシー。

アン念　おやおーや、お帰りかあ。それでは、ふたたび来てはいけませんー。

おばあさん　おやおーや、お帰りかあ。それでは、ふたたび来てはいけませんー。

アン念　なーんまいだー。

おばあさん　なーんまいだー。

アン念　(おばあさんの方をふり返って)えへん。これで、ありがたいお経はおしまいです。

おばあさん　ありがとうございます。ありがたいお経をいただいて、じい様も喜んでいることでしょう。ちよつと、お待ちくださいね。

おばあさん、まんじゅうをとりて上手に退場。まんじゅうの包みをもつて再び登場。

おばあさん さあさあ、おまんじゅうをたくさんお上がりください。

アン念 (まんじゅうを食べて) うんぐう。うまい、うまい。(夢中で食べる)

おばあさん (まんじゅう包んで、小僧に持たせて) さあさあ、これも後でお食べくださいな。

アン念 ありがとうございます。しっかりお経をあげるんだよ、ばあさん。

おばあさん はいはい。

アン念、おまんじゅうをもらって、帰っていく。

おばあさん 少し暗くなってきました。足下に、気をつけてお帰りください。
い。

おばあさん、アン念について下手、戸口に退場。

音楽。

その間に、戸口の窓のフタを閉めると、夜になる。
ややあって、おばあさん、戻ってきて仏壇の前に座る。

おばあさん ありがたいお経を、もう一度、じい様にあげて差し上げました。
よう。なんまいだー、なんまいだー。

泥棒が現れ、下手の戸口から中をうかがう。

おばあさん なんまいだー、チョロチョロおいでになりました。

泥棒、中に入ろうとする。

おばあさん こーりゃ、こりゃ。シーシツシのシー。

泥棒、あわてて隠れる。

おばあさん なーんまいだー、どこかにお隠れになりました。

泥棒 (顔を出して) なんだ、なんだ。ばあさんは後ろに目があるのか。

泥棒隠れ、上手障子の方から、再び顔を出す。

おばあさん おや、おーや、またまた、おいでになりました。なんまいだ

ー。シーシッシのシー。(泥棒、隠れる)

おばあさん またまた、どこかにお隠れになりました。

泥棒、今度は障子の裏からケコミ奥に入ってくる。

おばあさん なーんまいだー、中に入っちゃいけません。

泥棒、隠れるが、再び出てきて、あたりを物色する風。

おばあさん シーシッシのシー。大事なものを盗んではー、ほーとけ様が

怒ります。シーシッシのシー。

泥棒、あわてて下手の戸口の方に隠れる。

おばあさん おやおーや、お帰りかあ。それでは、ふたたび来てはいけま

せん。なーんまいだー。

泥棒 (首を出して) こりや、まいったなあ。なんだか、気味が悪いぞ。

今日は、退散、退散。

泥棒、逃げていく。

おばあさん なんまいだー、なんまいだー。今日は、小坊主さんのおかげ

でよい命日になりました。さて、わたしも休みましようかね。

ばあさん、障子の裏に退場。パネルが閉まる。

第4景 山寺のお堂

----- パネル開いて、再び山寺のお堂の中。

アン念、下手より帰って来る。

アン念 チン念、帰ったぞお。

----- チン念、阿弥陀パネル裏より登場。

チン念 あ、アン念。お経は大丈夫だったの。

アン念 大丈夫、だいじょうぶ。アン念様は、天才さ。おみやげのまんじ

ゆうだ。一個、お前にやろうと思って大切に持って帰ってきたぞ。

ほら。(まんじゅうを渡す)

チン念 ありがとう。

アン念 和尚さんが帰るまでに、くってしまえ。

チン念 (食べる)おいしいね。ムシヤムシヤ。(食べ終わって)だけど、

食べちゃったオハギのことは、どうするの？ 和尚様に、きつとし
かられるよ。

アン念 うーん。(考える)ハハ、まかしておけ。この天才、アン念様に。

(胸をたたいて)いい考えがあるって、仕上げは、ごろうじろうだい。

(ちよっと考える)チン念ついて来い。

----- アン念、チン念、上手に退場。やがて、カエルを何匹か抱えて戻る。カ

エルのゲロゲロ鳴く声。

アン念 チン念、その三宝を持ち上げる！

チン念 (三宝をもちあげて)こうかい？

アン念 そうそう。このカエルを、三宝の下に入れるから、すぐフタをし

ろ。(カエル、ゲロゲロ鳴く)よし、おろせ！

チン念 こうかい？(カエル、ゲロゲロ鳴く)

アン念 よし、いいぞ。次は、残ったオハギのあんこを集める。(二人、

三宝の上のあんこをかき集める)よし、こつちに来い。

----- 二人、上・下に分かれて、パネルの後ろから、阿弥陀様の口にあんこを

塗る。

アン念 よし、これでいいぞ。

-----そこに、上手より和尚が帰ってくる。

和尚 ただいま、帰ったぞ。二人とも、しっかりお経の勉強をしておったか。

チン念・アン念 はい、和尚様。

和尚 よしよし、それは感心。これは法事でいただいたごちそうだ。向こうに下げておいておくれ。

-----小僧たち、阿弥陀パネル裏に退場。

和尚 どれどれ、オハギは……。 (オハギの前に近づき) ありやりやつ、オハギがないぞ。こおれ、アン念に、チン念。

チン念・アン念 はい。 (登場)

和尚 お前たち、ここにあったオハギを知らないか。

アン念 あー、いえ、どうしたんですか。

和尚 お前たちが食べたのか。

チン念 いええー……。

アン念 あっ、和尚様。阿弥陀様のお口に、あんこがーあ。

和尚 何？ これはどうしたことか。阿弥陀様がお召し上がりになったのか。

アン念 阿弥陀様も、お腹がすいていたんじゃないか。

和尚 そんなバカな……。 (三宝に近づき、三宝を持ち上げる) わーあつ。

-----三宝の下から、カエルがピョンピョン、次々に出て来てくる。三宝は転がり落ちる。

カエル、次々に和尚に飛びかかる。和尚は逃げまわる。

和尚 わっ、なんじゃ、なんじゃ。ワシはカエルが大きらいじゃ。ゆるしてくれー。オハギがカエルになったあー。助けてくれーっ。

アン念・チン念 待てまで。こーら、待てまで。（カエルを追いかける）

和尚は、飛びかかるカエルに追いかけて、逃げまどう。小坊主は後から、カエルを追いかける。

和尚、阿弥陀パネルの裏に退場。（コミカルなエンディングの音楽）

アン念・チン念 待てまで。こーら、待てまで。

小僧たちがカエルをつかまえようと右往左往。するうちに、パネルが閉まる。

閉まったパネルの上に、カエルがゲロゲロと鳴きながら飛び出し、チン念が押さえつけて引っ込む。

すぐに、司会登場。

司会 大変なことになりましたね。和尚さんが、小僧さんたちにズルし

ようとしたばかりに、仕返しされちゃうことになりましたね。

再び、閉まったパネルの上に、カエルがゲロゲロと鳴きながら飛び出し、アン念が押さえつけて引っ込む。

司会 わっ、ビックリ。皆さんはカエルは好きですか？（やりとりあっ

て） それでは、これで「岡山の昔話―ねずみ経」の人形劇はおしまいです。

この脚本のもとになっているのは、岡山の民話「ねずみとぬすびと」「ぼたもちをたべた小僧さんのはなし」です。

厳密にいうと、「ぼたもちをたべた小僧さんのはなし」は、いくつかの種類が存在していて、そのうちの二つを合わせて創りました。だから、三つの民話がベースになってきています。

「ねずみとぬすびと」は、信心深いおばあさんなのですが、お経を知らないので、節だけは聞き覚えのある調子で、文句はそらの目にうつるものを、何もかんでも読み上げるといいます。ネズミの様子をお経にしていたら、入ってきた泥棒が、勝手に自分のことだと思い退散するというのが原話です。

アン念、チン念は創作です。アン念は小ズルイところはあっても、決して、意地悪ということではありません。チン念もちよつと間の抜けたところはありますが、頭の良くない子というわけではありません。伸び伸びとした子どもとして演じてください。